

事例⑤（東海市教育委員会の研修会）

●研修名：令和6年度東海市地域学校協働活動コーディネーター養成研修会

●目的：令和6年度から市内小中学校各1校で実証実験を開始している「地域学校協働活動」について、地域学校協働活動推進員及び活動協力者の資質向上を図り、円滑な本格導入につなげる。

●主催者：東海市教育委員会

●開催日時：令和6年12月14日（土）
14時00分～15時30分

●会場：東海市立加木屋市民館 研修室

●講義：地域学校協働活動と地域コーディネーター（推進員）の役割について



●講師：全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 山本 裕一 氏

●受講対象者：地域学校協働活動推進員、学校運営協議会委員、教職員、市職員

●参加人数：17名

●研修内容：

講義

◎学校における教育目標が社会と共有されなければ、連携・協働は生まれない。

◎コミュニティ・スクールの意義

保護者や地域住民等が当事者意識を持って参画することで、様々な取組が活性化。コミュニティ・スクールは、不登校問題にも効果を発揮している。

◎私たちは、“学習する組織”

（子供の学びを考える大人の集団）であるということ。

◎終わりに；コーディネーターの役割を考えよう

<主な感想等>

○地域の人たちにこのような活動を広める方法（知っている人は知っているが、知らない人は知るべきがない）

○今まで理解できていなかった部分がわかりやすく教えていただきました。「議論」を大切に先生方とよりよい活動につなげていけたらと思います。ありがとうございました。

○現状維持を満足せず、更に考えるべくきっかけをいただきました。

○やりながら教えていきたいと思いました。

○本日の講義の中では、学校、地域の当事者意識を育てる事がまずは重要である事を認識した。活動を進めていく上でプロセスが大事である事、その為にも現状の把握が必要である事を改めて感じた。

○地域の方が当事者意識を持って取り組むということは、なかなか行政から言うことは難しいので、第三者の立場の方から言っていただく機会があるのは良いと感じた。また、やはり統括コーディネーターのポジションの方がいずれ必要ではと思った。分かりやすく説明していただいたため出席された方も頷きながら聞いていて理解が進んだと思う。